

# 令和7年度庄原市複式指導研修会

令和7年10月1日(水) 庄原市立高野小学校

複式授業における指導の在り方を研修することを通して、児童生徒が主体的に学び合う学習を目指した授業改善を図ることを目的に、研修会を行いました。

## 【研究授業】第3・4学年 国語科 「せっちゃんざいの今と昔」「くらしの中の和と洋」

授業者: 庄原市立高野小学校 教諭 松田 晶子

○庄原市立高野小学校の複式学級の国語科の授業を参観し、「主体的に学び合う学習となっていたか」について研究協議を行った。



## 【講話】

「複式学級における『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指す授業改善について」

広島県立教育センター 企画部 指導主事 熊野 めぐみ

○複式学級の特性とよさを生かしながら、児童にとって「安心する」「学びたい」と思える環境づくりをしていく。

○複式学級では、一人の教師が両方の学年に同時に直接指導を行うことができない。だからこそ、子供たちが主体的に学習を進める「絶好のチャンス」ととらえるマインドセットが必要である。

○「深い学び」につなげるための教師の指導性を発揮する場面を見極めることが大切。



## 【参加者の感想等】

□複式学級の特性や良さを理解し、一人一人が生き生きと学び、生活できる環境づくり、授業づくりにシフトチェンジしていきたい。

□教師の指示や発問を明確にし、子供が何を考え、どうすればよいかをしっかりと理解させることが必要だと感じた。

□教師が介入し授業を深めていく場面を、授業の中で1つは決めて授業づくりをしていきたい。児童に任せる場面と教師が教える場面、そのバランスが大切であると分かった。

□複式でも単式でも、まずは教科のねらいを達成するために教材研究が大切だと改めて感じた。特に、その時間のゴール設定、問いの工夫、子供たちが見通しをもって1時間1時間学習を進めていけるような授業づくりを目指していきたい。